

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2023 年 10 月

「神のむすこ娘たち」「兄（Ⅱ）」「区別をあらわす特徴」「カボチャ揚げ団子」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「兄(Ⅱ)」

4

聖書の教え

朝のマナ

「神のむすこ娘たち」

7

Sons and Daughters of God

現代の真理

「キリストが戸をたたいておられる(V)」 39

Good Way Series- 正道 -

力を得るための食事

「カボチャ揚げ団子」

42

レシピ

お話コーナー

「最初のあやまち(Ⅰ)」

44

聖書物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

発行日 2023年9月3日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sakusabe on Front page; Sermon View on
page 48

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

われわれが勝利する道

イエスがバプテスマをたのまれると、ヨハネはおしとどめて「わたしこそあなたからバプテスマを受けるはずなのに、あなたがわたしのところにおいでになるのですか」と叫んだ(マタイ 3:14)。イエスは、きっぱりとしかしやさしい威厳をもって、「今は受けさせてもらいたい。このように、すべての正しいことを成就するのは、われわれにふさわしいことである」と答えられた(マタイ 3:15)。…

水からあがってこられると、イエスは祈りのために川の岸にひざまずかれた。一つの新しい重要な時代がイエスの前に開かれようとしていた。…地上ではだれひとりイエスを理解した者がなく、公生涯の間もおひとりでも歩まれねばならない。イエスの一生の間、その母と兄弟たちは彼の使命を理解しなかった。弟子たちさえ、イエスを理解しなかった。イエスは、神と一つのおかたとして、永遠の光のうちに住んでおられたが、地上の生涯は孤独のうちに送られねばならない。…

イエスはすべてそうしたことを見、また感じられたが、彼の決意は固かった。墮落した人類の救いがイエスの腕にかかっていたので、彼は手をさしのべて大能なる愛の神のみ手をにぎられた。

救い主が魂をそそいで祈られる時、その目は天を見通しておられるようにみえる。…彼らのために破壊者を征服する力を、イエスは天父に懇願される。…

天父がご自身でみ子の祈願に答えられるのである。み座から直接に神の栄光が輝き出る。天が開け、…救い主の頭上にくだる。…開かれた天から、一つの声がくだって、「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」というのが聞こえた。(各時代の希望上巻 114-117)

「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」…キリストにこのことばを疑わせようとするのがサタンの目的だった。もし神に対するキリストの確信を動揺させることができれば、…サタンはイエスにうち勝つことができるのである。(同上 127, 128)

神はすでにイエスが神のみ子であることを証明された。(同上 139) 天からの声の記憶に力づけられて、キリストは天父の愛に信頼しておられた。(同上 129)

〔サタン〕が即座に退却したことは、イエスが神のみ子であることを否定できなかった証拠である。(同上 145)

主は、人の通らねばならない道を自らお通りになって、われわれが勝利する道をお備えになった。(同上 134)

聖書の教え

兄(Ⅱ)

わたしたちの注意を、たとえの兄へと向けてみましょう。

「ところが、兄は畑にいたが、帰ってきて家に近づくと、音楽や踊りの音が聞えたので、ひとりの僕を呼んで、『いったい、これは何事なのか』と尋ねた。僕は答えた、『あなたのご兄弟がお帰りになりました。無事に迎えたというので、父上が肥えた子牛をほふらせなされたのです』。兄はおこつて家にはいろいろとしなかったで、父が出てきてなだめると、兄は父にむかつて言った、『わたしは何か年もあなたに仕えて、一度でもあなたの言いつけにそむいたことはなかったのに、友だちと楽しむために子やぎ一匹も下さったことはありません。それなのに、遊女どもと一緒に、あなたの身代を食いつぶしたこのあなたの子が帰ってくると、そのために肥えた子牛をほふりなさいました。』」(ルカ 15:25-30)。

兄は勤勉な労働者でした。彼は父親に提示する自分自身の良い働きを多く持っていました。彼は自分の重労働のために受けるであろう報酬を計算する冷たい義務遂行者でした。愛から働いたのではなく、報酬のために働いたのです。彼の生涯は継続的な労働の生涯でした。一生懸命働く人になることは、美德です。特にその人が献身と愛をもって働くなら、そうです。先に述べた富める青年のように、兄もまたこの点において失敗しました。彼には自分の父親と愛情関係がありませんでした。弟が自分の父親の家から遠く離れた地へ出て行ったように、兄もまた自分の父親の心から遠く離れて住んでいました。彼はこの年老いた父親の面前にこの事実を突きつけました。「わたしは何か年もあなたに仕えて、一度でもあなたの言いつけにそむいたことはなかったのに」(29 節)。彼は自らを息子とはみなさずに、自分の父親の農場にいる僕のひとりとみなしていたのです。

この物語を聞いていた宗教指導者たちは、ここに何の問題も見出すことができませんでした。彼らは神と愛の関係を持っていませんでした。奴隷の関係だったのです。彼らはイエスが神と非常に近い関係を持っているのを見て憤慨しまし

た。なぜなら、主がこのお方を自分の父として語られたからです。ユダヤ人はこのような方法で神に言及しませんでした。彼らは子供ではなく僕に過ぎなかったのです。

わたしたちが分析してきた事実から、わたしたちが離れていた時間の長さがどれくらいであろうと、この態度は今日多くの人が神と持っている関係に充満しています。彼らは愛情の関係を維持するために神に近づく勇気がありません。彼らは宗教も霊性も、義務や責務の一覧としか見ません。この種類の人々にとって、霊的な人になるということは、ルールや原則に従うことなのです。彼らは自分の心を、友に対してするように、御父に開くことができません。この人の宗教は無味乾燥であり、喜びがありません。

兄に宴会が聞こえたとき、どのような反応だったでしょうか。彼は怒りました。なぜでしょうか。なぜなら、自分の父親が失われていた息子が戻ってきたことを喜んだからです。「兄はおこつて家にはいろいろとしなかった」（ルカ 15:28）。彼は自分の兄弟の戻ったことがうれしくありませんでした。なぜでしょうか。おそらく彼は自分の遺産が危険にさらされることを恐れたからでしょう。つまり、彼は冷たく、計算高かったのです。それどころか、家に帰ってきた青年を自分の兄弟として見るのが難しかったのです。彼は彼のことを自分の兄弟として言及しませんでした。むしろ、彼が他人であるかのように扱ったことが記述されています。彼は弟のことを「このあなたの子」（30 節）という無関心な言葉で言及したのです。彼は「彼はわたしの兄弟ではない」と叫びたいかのようでした。

ロッカー氏は幸せな父親が二度「あなたの兄弟」と述べている点を挙げています。兄弟、この遊女を愛する者が、わたしの兄弟—あり得ない！無礼に、そして侮辱的に彼は自分の父親に言います、「このあなたの子」。軽蔑、反感、苦々しい皮肉が、自分の兄弟の罪をもっとも重く暗いいろいろの中で思い起こさせるという行為の中に含まれていました。エリコット氏は次のように述べています。「このあなたの子」という表現は、集中的な愛句を示している（「聖書のすべてのたとえ」 333 ページからの言い換え）

これがパリサイ人と律法学者の困難でした。彼らはなぜイエスが「罪人の友」であられるのかが理解ができませんでした。どうして彼はこのような種類の人々と共に歩むことができるのでしょうか。彼らはそうしませんでした。彼らは自分たちと同じように善良で正しい人々とのみ関係を持ちました。これらの人々、すなわち社会の追放者は「わたしの兄弟」ではありませんでした。

自己義の精神は、わたしたちの時代にすがたを消してはいません。神から遠い人が家に戻ろうと決心するとき、必ずしもすべての「クリスチャン」が喜ぶわけではありません。彼らは新しくあがなわれた魂を見下し、その人の改心を信じません。クルチバにある福音教会が YouTube に一つのビデオを投稿しました。それは一般の人々にクリスチャンになるということがどういうことかを質問するということでした。それは信者に関する世界規模のものでした。賞賛と批判のあいだで、一つのことは明確でした。教会社会に属していない多くの人々が、教会に入った時に自分たちが取り扱われる偏見について苦情を述べているということでした。イエスはそうなさるでしょうか。もしこのお方がこれらの教会の一員であれば、普通だと思われる社会の標準に見合わない来客をどのように取り扱われるでしょうか。このお方ご自身が、これらの「よそ者」である人々と培われる友情のゆえに、どのように取り扱われることでしょうか。もしわたしたちがキリストに従う者だとみなされたければ、「罪人」をわたしたちの主人であるお方が取り扱われたように、腕と心を開いて取り扱わなければなりません。

兄は弟を自分の兄弟とさえ考えませんでした。彼は弟を「彼の父親の子」として扱いました。彼の心は自分の弟と人類仲間への愛にことごとく欠いていましたが、彼は一度も戒めを犯したことがないと言いました。事実、彼はどの戒めも守っていなかったのです。彼もまた一つのものが不足していました。愛、すなわち神の律法の基礎であり重要不可欠な原則に欠いていたのです。彼は自分の父親の家で働いていたが、愛からではなかった自分の生涯と、さまよっていたが悔い改めて戻ってきた自分の兄弟の生涯を比べました。

神のむすこ娘たち

Son and Daughters of God



10 月

私たちはキリストの内に宿る

命の源キリストを受け入れることにより

「この言に命があった。そしてこの命は人の光であった。」(ヨハネ 1:4)

私たちが豊かな喜びにみちた経験を持つことができるようにと、主はあらゆる備えをしておられる。ヨハネはキリストに関して、「この言に命があった。そしてこの命は人の光であった」と記している。命は光と結びついているので、もし私たちが義の太陽からの光を受けないなら、この方の内に命を持つことはできない。しかしこの光はあらゆる魂のために備えられているので、私たちが光から身を引く時だけ、暗闇が私たちをおおう。イエスは、「わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光を持つであろう」と仰せになった。私たちを取りまいている世界では、光がなくて命を持つことのできるものはない。太陽が輝きを止めるなら、すべての植物、動物の生命は絶えてしまう。このことは、私たちが義の太陽からの光線のもとに自分の身を置かないなら、霊的生命を持つことはできないという事実を説明している。花の咲いている植物を暗い部屋に入れると、まもなくしおれて枯れる。そのように私たちはある程度霊的生命をもっていたとしても、疑いや陰気という雰囲気の中に住むことによってこの生命を失うのである。

.....

私たちはキリストの場所を占めるためではなく、ヨハネのように光について証をし、他の人々の思いをキリストに向けるために召されている。……キリストのために証をしたいと思う者は誰も自分を目立たせたり、人々の注意を自分に引きつけようとするのではなく、イエスを掲げるために努力しよう。ユース・インストラクター 1893 年 5 月 25 日

人類はそれ自身のうちに光をもっていない。キリストから離れるならば、私たちは火がともっていない灯心のようにであり、太陽に顔をそむけた月のようである。したがって暗い世界にただ一筋の光を与えることもできない。しかし、私たちが義の太陽に向かい、キリストと接触する時、神の臨在の輝きによって全心が燃やされるのである。祝福の山 p49

力の源キリストのうちにおることにより

「キリストにこそ、満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿っており、そしてあなたがたは、キリストにあつて、それに満たされているのである。彼はすべての支配と権威とのかしらであり、」（コロサイ 2:9、10）

主イエスは聖霊を通して働かれる。聖霊はキリストの代理者だからである。聖霊を通してこのお方は魂のうちに霊的生命を吹き込み、善を行うように活気づけ、魂を道徳的汚れから清め、ご自分の王国にふさわしいものとされる。イエスは無限の知恵と力にみちた素晴らしい相談相手なので、私たちがみ霊の力を認めて、形造られるために屈服するなら、このお方のうちにあつて完全になる。これは何という思想であろうか。キリストにこそ「満ちみちているいっさいの神の徳が宿っており、そしてあなたがたはキリストにあつて、それに満たされているのである。」

人の心は神のみ霊に形造っていただくために屈服するまでは、幸福ということが決して分らない。み霊は新たにされた魂を型であるイエス・キリストに従わせる。聖霊の感化を通して、神に対する敵意は信仰と愛に変わり、自尊心は謙遜に変わる。魂は真理の美を理解し、キリストは品性の高潔と完全で名誉をお受けになる。これらの変化がもたらされる時、天使は歓喜の歌を響かせ、神とキリストは神のかたちに型どられた魂を喜ばれる。レビュー・アンド・ヘルド 1903 年 2 月 10 日

エホバ・インマヌエルは「知恵と知識との宝が、いっさい隠され」「満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿って」いるおかたである。そして私たちが主の性質を受けようとますます心を開くにつれて主と一つになり、主を知り、主をわがものとするようになる。また主の愛と力を知り、キリストのはかり知れない富を持ち、「また人知をはるかに越えたキリストの愛を知って、神に満ちているもののすべてをもつて、あなたがたが満たされ」「その広さ、長さ、高さ、深さ」をますます理解するようになるのである。—「これが主のしもべらの受ける嗣業であり、また彼らがわたしから受ける義である」と主は言われる。祝福の山 43

キリストが歩かれたように歩くことにより

「このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのだから、彼にあつて歩きなさい。」(コロサイ 2:6)

あなたは命の冠を受けようと戦っている。……あなたを罪から救うためにそのひとり子イエスを与えて下さった、それほど価値ある者とあなたを考慮しておられる神を喜ばせるために生きなさい。……する価値のあるものは正しく行う価値があるという思想をいつも覚えていなさい。知恵を求めて神に頼りなさい。そうすれば正しい行為で一人の魂をも落胆させることはなくなる。魂をキリストに引き寄せるにあたつて、このお方と共に働きなさい。……あなたが引き受けたすべてのことについて全力を尽くしなさい。イエスはあなたの救い主であるから、日々助けを求めてこのお方により頼みなさい。そうすればあなたは毒麦をまくのではなく、王国の良い種をまくことができる。……

あなたは目と同じように頭を使って物事を見ることを学ばなければならない。判断力が弱まったり、なくなったりしないよう、これを訓練しなければならない。導きを求めて祈り、あなたの方法を主に委ねなければならない。心をあらゆる愚かなことや罪に対して閉ざし、天からのあらゆる感化に対して開かなければならない。均整のとれた品性を発達させるために自分の時と機会を最大限に活かさなければならない。……

私たちは「キリストにあつて完全に」ならなければならない。「このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのだから、彼にあつて歩きなさい。」このみ言葉はあなたがキリストの生涯を研究しなければならないということである。永遠の関心は一時的な地上の仕事よりもはるかに重要なので、宗教に関係のない知識を学ぶよりも、もっと熱心に研究すべきである。あなたが永遠の事柄についての価値と神聖さを正しく理解するなら、永遠の幸福を含む問題を解くために、最も鋭敏な思考、最高の能力を注ぐ。他のあらゆる関心事はこれと比較するなら、無きにひとしいからである。

あなたには型であるキリスト・イエスがおられる。この方のみ足の跡を歩みなさい。そうすればあなたが占めるようにと召されるどのような立場にも応じるために適任者となる。……あなたはつながれた奴隷であると感じるのではなく、神の子であると気づくべきである。ユース・インストラクター 1894 年 5 月 17 日

真理に歩むことにより

「兄弟たちがきて、あなたが真理に生きていることを、あかししてくれたので、ひじょうに喜んでいる。事実、あなたは真理のうちに歩いているのである。」(ヨハネ第三 3)

主は、人に委ねておられる最大限の能力のための場所を用意しておられる。神の王国を築くという働きにおいて、ダニエルがバビロンで人に対するあらゆる義務に忠実であり、神に対して忠誠を尽くすのを見られたように、私たちも神に与えられたあらゆる能力を忠実に熱心に用いることができる。

神は人がご自分にこれまで捧げてきたよりも、もっと機転をきかし、もっと賢い管理能力を人に求めておられる。鋭敏で清められた考え、またサタンの巧妙な計画を破るためにすぐれた働きをする必要がある。主の働きの中で満たすべきより高い標準、発揮すべきより神聖な、堅く決心した自己犠牲的努力が求められている。私たちの青年はより高い標準に応じるために、今自分が自身の運命を決定していることを理解するために教育されなければならない。イエスの内にあるのと同じ真理を心の中に持っていないかぎり、だれにも保護手段はない。このことが聖霊によって心の中に植えつけられねばならない。現在宗教と呼ばれているものの多くはサタンの軍勢に攻撃されるときには見えないところに沈んでしまう。真理すなわち、魂を清める上からの知恵以外は何者も立つことはない。

だれも自己放縦が宗教であると思いをし、利己心を甘やかさないようにしよう。青年が自分の欲望を抑え、財産を使うにあたって浪費に気づくよう学ばせよう。すべての者がイエスを見上げ、そのご品性を熟考して、み足の跡に従おう。
ユース・インストラクター 1894 年 5 月 24 日

真理は受け入れられるなら絶えず広がり、新しい発展をする能力がある。私たちが真理を見つめるとき輝きは増し、つかもうと熱望するとき高く深くなる。このようにして真理は私たちを完全という基準まで高め、目前にある働きのための力として、神を信じる信仰と信頼を私たちに与える。原稿 153,1898 年

神の真理を適用することによって、神の完全なかたちが再現される。教会への証 6 卷 167

細部にわたって戒めを守ることににより

「神の戒めを守る人は、神におり、神もまたその人にいます。そして、神がわたしたちのうちにいますことは、神がわたしたちに賜わった御霊によって知るのである。」(ヨハネ第一 3:24)

神は私たちが生活の微細な点、すなわち言葉、精神、行動を警戒するよう要求される。これをするには、完全な克己を身につける必要があり、絶えず止むことのない用心深さを要する。……

自己が抑制され続けていれば、家庭や仕事上での重大な過ちは避けられる。多くの家族のうちには、だらしない軽率な事柄と言われる習慣、またからかいや厳しい言葉を出すという習慣が行われていて、これをほしいままにする時この習慣がますます強くなる。そして、このようにして不快な言葉が、神の指示ではなくサタンの指示に従って語られる。激しい感情的な言葉を話すがままにしている人々は手引書である聖書を研究して、まじめな思いでその要求されることを知り、それを行おうと努めるなら、すなわちその命令を実践するなら、なんという変化が行為と会話にあらわれることであろう。……人生におけるあらゆる関係、あらゆる責任ある立場、あらゆる愛情と習慣、あらゆる心の動きは義の偉大な基準である非常に広大な神の戒めに照らされるべきである。私たちは自分が理解することのできる心の単純さと神のみ言葉の教えをすべて快く実行する心を持たなければならない。

思い全体が聖霊によって形造られなければならない。神の力は、私たちがキリスト・イエスにあって完全になることを熱心に求める時に、人の努力と結びつく。主は全心全霊をもってご自分を求める一人一人を助けられる。その人に命の光を持たせ、その光は神の律法から輝きでる。太陽の光が全世界を暖かくするように、義の太陽の輝く光は心の中に健康を与える光線を注ぐ。ユース・インストラクター 1894 年 9 月 20 日

神の子として一つになることにより

「あなたがたはみな、キリスト・イエスにある信仰によって、神の子なのである。」
(ガラテヤ 3:26)

二人の人がまったくそっくりであるのを見つけるのはまれである。自然界の物と同じように、人間の中でも相異がある。神の子らの間にある相異の中の一致、すなわち気質の違いにもかかわらず愛と寛容があらわれるのは、神が罪人を救うためにみ子を世に送られた証拠である。原稿 99,1902 年

キリストと弟子の間に存在する一致はどちらの個性をも台無しにしない。思いにおいて目的において品性において彼らは一つであるが一人の人ではない。神のみ霊にあずかることにより、神の律法に従うことによって、人は神性にあずかる者となる。キリストは弟子たちをご自身とまたみ父との生きた一致に至らされる。聖霊の人の思いへの働きかけを通して、人はキリスト・イエスにあつて完全にされる。キリストとの一致はお互いの一致のきずなを確立する。この一致はキリストの偉大さと徳、罪を取り除くその方の力についての、世に対する最も説得力のある証拠である。原稿 111, 1903 年

仲たがいや争いを引き起こすことを拒み、共に立ち、愛によって働き魂を純潔にする信仰を大切にしながら、親切で礼儀正しく、優しいキリストが彼らを愛されたように、互いに愛し合う信者に対して、闇の力はほとんど無力なのである。私たちはキリストの精神を持たなければならない。さもなければ私たちはこのお方のものではない。原稿 103,1902 年

一致には力強さがある。分裂には弱さがある。手紙 31,1892 年

キリストとの一致が密になればなるほど互いの一致も密になる。不一致と不満、利己心とうぬばれが至上権を求めて争っている。これらは分裂した心の実であり、魂の敵の提案に心を開かせる。サタンは不一致の種をまくことができるとき狂喜する。原稿 146,1902 年

一致の中には、他の方法では得ることのできない命と力がある。原稿 96,1902 年

キリストは真のぶどうの木

「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。」(ヨハネ 15:1)

キリストに従いたいと思う者はこのお方を信じなければならない。このお方を、宿ってくださる客として受け入れるために心を開かなければならない。枝が生きたぶどうの木につながっているように、キリストのうちにとどまっていなければならない。もとの幹と枝の間にはなくてはならない結合があり、木と同じ性質の実が枝にもつく。主はこのように自分自身をイエス・キリストに結びつける人間を通して働かれる。キリストに変わることなく信頼している者は、エノクのように神が共におられるという意識を持つ。なぜ不安を感じ、自分がみなし子であると感じる人がこれほど多いのだろうか。なぜなら主イエスが自分の罪を負う方であるという尊い保証を信じる信仰を養わないからである。イエスが人性をとって、私たちのようになられたのは、罪を犯した者のためであり、私たちが永遠の平安と保証を持つためであった。私たちには天に助け主がおられ、このお方を自分の個人的な救い主として受け入れる者はだれでも、自分自身の罪ののろいを負う孤児として放っておかれることはない。

私たちは日毎に信仰を養い、自分の身代りとなって下さったお方、憐れみ深く忠実な大祭司を日々熟視しなければならない。「主ご自身(少々のことにではなく、私たちのようにあらゆる点において) 試練を受けて苦しまれたからこそ試練の中にある者たちを助けることができるのである。」「この大祭司は私たちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。」今も天でこのお方は私たちの苦悩を悲しまれ、生きている救い主として、深い関心を示す助け主として、私たちの仲保をして下さっている。

このお方が私たちを愛し、その血によって私たちを罪から洗い、それを考えることによって、父なる神のために御国の民とし、祭司として下さったことを理解することにより、私たちの信仰は増し加えられる。そのように私たちは日毎に、信仰を働かせなければならない。

ユース・インストラクター 1894 年 10 月 18 日

私たちは枝

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。」(ヨハネ 15:5)

私たちはイエス・キリストから受けないかぎり、何の価値もなく、何も持っていない。ユース・インストラクター 1894 年 6 月 21 日

心を無条件に神に捧げるまで、人間は真のぶどうの木につながってはならず、おい繁ることも豊かに実を結ぶこともできない。神はわずかと言えども罪と妥協なさることはない。もし神が妥協することができるなら、キリストは苦しみ、死ぬためにこの世に来られる必要はなかった。真理を受け入れた人の品性と行いの両方が変らない改心は本物ではない。真理は愛によって働き、魂を純潔にする。手紙 31a1894 年

私たちがキリストにつながらないかぎり、告白は価値がない。ぶどうのいきいきとした特質が私たちのうちにみなぎるまで、私たちは生きた枝となることはできない。本物のクリスチャンには主の著しい特徴があらわれる。そして私たちがキリストの恵みを生活と品性のうちに反映するとき、御父は御子を愛されるように私たちを愛される。現代の真理を信じると告白する人々のうちに、この状態が成就する時、私たちは繁栄する教会を見る。なぜなら教会員は自分のために生きるのではなく、自分たちのために死なれたお方のために生きるからであり、生けるぶどうの木におい繁っている枝となるからである。ST1892 年 4 月 18 日

木の根には果たすべき二つの役割がある。望む養分を摂ると同時に、根で地面にしっかりとしがみつくのである。クリスチャンも同様である。根元であるキリストとの結合が完全である時、このお方を常食とする時、霊的力の流れが彼に与えられる。そのような枝の葉はしおれるだろうか。決してそのようなことはない。魂がキリストに向かっているかぎり、しおれたり、垂れ下がったり、朽ちたりする危険はない。大嵐のようにやってくる誘惑も彼を根こそぎにすることはない。真のクリスチャンは贖い主に対する深い愛から、自分の行動の動機を引き出す。主に對する彼の愛情は真実で気高い。ユース・インストラクター 1898 年 3 月 24 日

神は私たちがもっと豊かに 実をならせるために剪定される

「わたしにつながっている枝で実を結ばないものは、父がすべてこれをとりぞき、実を結ぶものは、もっと豊かに実らせるために、手入れしてこれをきれいになさるのである。」(ヨハネ 15:2)

自己犠牲と克己を続けられた贖い主のみ足の跡にびったりと歩もうとする者は、自分の思いにキリストの思いを反映する。キリストの純潔と愛は日々の生活と品性に輝き出、柔和と真実が彼らの道を導く。実を結ぶ枝も剪定される。もっと豊かに実らせるためである。実を結ぶ枝も必要以上に繁りすぎることがあるからである。キリストに従う者は、主のためにある働きをしているかもしれないが、彼らがするべき半分もしていないことがある。キリストはその時彼らを剪定される。世を愛する心、自己放縦、また自尊心がその生活に出てきているからである。農夫はぶどうの木の余分な巻きひげを切りつめる。……このようにして枝をもっと実を結ぶようにするのである。義の太陽からの癒しの光が差し込めるように、邪魔をしている原因は取り除き、欠陥のあるひこばえは切り取らなければならない。……

多くの人は自分が創造された目的を誤解している。自分を楽しませたり、称賛するためというよりは、人を祝福し神に栄光を帰すために造られたのである。民が葉だけを繁らせるのではなく、神の栄光のために実を結ぶことができるようにと、神は絶えずご自分の民を剪定し、伸びた枝を切り落とされる。品性の強くていこじな特徴というひこばえが弱められ、より良い特徴が発達する機会があるようにと、神は悲しみや失望や苦悩のうちに私たちを剪定される。偶像を捨て、良心はもっと感じやすくなり、心の瞑想は霊的になって品性全体の均整がとれなければならない。教会への証 4 巻 354

キリストとつながることによって、私たちはこの方の柔和、芳香、その光を持つことができる。……キリストが私たちの心の中で輝く。心の中にあるその光は私たちの顔から輝き出る。キリストの麗しさと栄光を見つめることにより、私たちは同じ姿に変えられる。原稿 85,1901 年

キリストにつながる時だけ実を結ぶ

「わたしにつながっていないさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながって
いよう。枝がぶどうの木につながっていないければ、自分だけでは実を結ぶことがで
きないように、あなたがたもわたしにつながっていないければ実を結ぶことができな
い。」(ヨハネ 15:4)

私たちが不注意に罪にふける理由は、イエスを見ないからである。罪が私た
ちの主を傷つけるという事実を認めるなら、私たちは罪を軽く考えたりはしない。
……神のご品性について正しく判断できれば、このお方を世に正しくあらわすこ
とができる。荒々しい言葉や態度、悪口、感情的な言葉はイエスを見つめている
魂のうちに存在することはできない。キリストにつながっている人は悪を禁じる雰
囲気のうちにおり、この種の事柄に対してどのような言い訳も、わずかといえども
しないのである。霊的生命は内側から養われるのではなく、枝が木からもらうよ
うに、キリストからその栄養を得るのである。私たちはキリストに毎瞬間より頼ん
でいる。このお方は供給の源であられる。私たちの外観、すべて、祈り、断食、
施しなどは、人間の心に対する神のみ霊の内なる働きの代りにはなれない。ユース
・インストラクター 1898 年 2 月 10 日

自己がまったくむなしくなり、いつさいの偶像が胸中から除かれた時、その跡
にキリストの満ちあふれる霊が満たされる。そのような人は汚れから心を潔める
信仰を持つ人である。……彼は真のぶどうの木の枝であり、見事な房の実を結び、
神の栄光をあらわす。このように結んだ実はどうのような性質のものであろうか。み
霊の実ば「愛」であり、憎しみではない。「喜び」であり、不平や不満ではない。「平和」
であって、苛立ち、不安、作り出した試練ではない。それは「寛容、慈愛、善意、
忠実、柔和、自制」である。福音宣伝者 445,446

一本の枝は他の枝から自分の栄養を借用すべきではない。私たちの生命は親
であるぶどうの木からこなければならぬ。私たちがみ霊の実を結ぶことができ
るのは、時々刻々キリストとの個人的な一致、この方との交わりによるのみである。
……恵みのうちに成長し、喜び、有用さ、これらがあるのはすべてキリストとの
一致とこの方にあって働かせる信仰の程度による。教会への証 5 巻 47,48

キリストから離れる枯れた枝

「人がわたしにつながっていないならば、枝のように外に投げすてられて枯れる。人々はそれをかき集め、火に投げ入れて、焼いてしまうのである。」(ヨハネ 15:6)

ユダは……変えられて、真のぶどうの木との交わりによって生きた枝に回心しなかった。この乾燥した若枝は、自分の実を結んでしまうまで、ぶどうの木につながらなかった。彼は接木であつて、実を結ばないもの、すなわち、繊維と繊維、木目と木目がぶどうの木と結合し、その生命にあずかるものとならない接木であることをあらわした。

この乾燥したつながりのない接木は生けるぶどうの木の生命と栄養にあずかる者となることによって、またぶどうの木に接木され、できるかぎりびったりとくつつく関係に至ることによってのみ、親株と一つになることができた。……小枝はぶどうの木の生命が枝の生命となり、ぶどうの木のような実を实らせるまで、生命を与えるぶどうの木にしっかりとすがりついている。レ'ユー・ア'ント・ヘ'ラルド' 1897年 11月16日

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」とキリストは仰せになった。ここで可能なかぎりの親密なつながりが説明されている。葉のついていない小枝をおい繁ったぶどうの幹に接木しなさい。そうすれば、ぶどうの木から樹液と養分を吸って生き生きとした枝になる。若木は芽を出し花を咲かせ実を結ぶまで繊維と繊維、木目と木目をびったりとくつつける。樹液のない小枝は罪人をあらわしている。キリストに結びつくとき、魂は魂と結びつき、弱々しく有限な者は聖なる無限な者となって、人はキリストと一つになる。教会への証 5 巻 591

外見上乾燥している枝は、生けるぶどうの木とつながることによってその一部となる。……罪過と罪に死んでいた魂は、同じような過程をたどらなければならぬ。……接木がぶどうの木と一つになるときに生命を受けるように、キリストにつながったとき、罪人は神性にあずかる者となる。有限な人間が無限の神と一つになる。このように一つになる時キリストのみ言葉は私たちにおり、私たちは発作的な感情で行動するのではなく、生きたいつまでも続く原則によって行動する。教会への証 4 巻 354,355

キリストを受け入れる

「だから人の前でわたしを受け入れる者を、わたしもまた、天にいますわたしの父の前で受け入れるであろう。しかし、人の前でわたしを拒む者を、わたしも天にいますわたしの父の前で拒むであろう。」(マタイ 10:32、33)

私たちは日々の生活の中でキリストを受け入れているのであろうか。自分の服装、単純で上品な衣服で自分を装うことによってこの方を受け入れているのだろうか。神のみ前にきわめて尊い、柔和でしとやかな霊が私たちの装いであろうか。私たちは主の働きを前進させようと努力しているのだろうか。……あなたはこれを着てはならない、あれを着てはならないとあなたに言う必要はない。もしこれらのむなしい事柄に対する愛があなたの心の内にあるなら、その飾りを捨てることはただ木の繁っている個所を切り落とすようなものだからである。生来の傾向は再び自己主張するであろう。あなたは自分自身の良心を持たなければならない。

……

私たちは枝がぶどうの木につながっているように、キリストにつながっていなければならない。……私たちが望むのは木の根元に置かれたおのを持つことである。世に対して自己に対しては死に、神に対して生きることを望む。……私たちがキリストと共におり、このお方に学んでいることを人々が知るために、私たちはキリストに近づく必要がある。ビュー・アンド・ヘルド 1892 年 5 月 10 日

キリストを真似る者はこの方の克己と自己犠牲をはっきりとあらわす。……聖書におけるクリスチャンの良心は、世俗的な人たちが、ちょうど自分たちの利己的傾向にふける代りに、忍び、また自己を否定するようにと警告する。一方にはイエス・キリストに従う、自己を否定する者がおり、もう一方では、世を愛する放縦な者、流行に流され、軽々しい言動をし、禁じられた快楽で自分を満足させる者がいる。後者の側にクリスチャンは行くことはできない。彼のための場所はないからである。ユース・インストラクター 1894 年 9 月 6 日

私たちの命はキリストと共に神の内に隠れなければならない。この方があらわれる時、私たちもまたこの方と共に栄光の内にあらわれることができるからである。ビュー・アンド・ヘルド 1892 年 5 月 10 日

兄弟愛という実を結ぶ

「あなたがたが実を豊かに結び、そしてわたしの弟子となるならば、それによって、わたしの父は栄光をお受けになるであろう。」(ヨハネ 15:8)

キリストとその民とのつながりは生きた真実の絶えることのない、み父とみ子の間に存在する一致に似ているものでなければならない。この一致は聖霊が内住される実である。神の真の子はみな、世にキリストとまた兄弟たちとの一致を示す。心にキリストが住まわれる者は兄弟愛という実を結ぶ。彼らは神の家族の一員として、精神、言葉、行動においていつまでも続くクリスチャンの愛と友情を培い、大切にすべきであることに気づく。

神の子、王家の一員であるということは多くの人が想像する以上のことを意味している。神がご自分の子と違って下さる人々は互いにキリストのような愛をあらわす。彼らは一つの目的、すなわち世に対するキリストの真の代表者であるために生き、働く。その愛と一致によって、彼らは自分たちが神の信任状を持っていることを世に示す。愛と克己の高潔さによって、彼らは救い主に真に従う者であることを周りの人々に示す。あなたがたが「互いに愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」……

人が再び生まれて、キリスト・イエスにあつて新しい人であることをわからせることのできる最も力強い証拠は、兄弟に対する愛を示すこと、キリストのような行為をすることである。これはキリスト教という香りを放つのに役立ち、魂を真理へ導くことのできる最も素晴らしい証である。

キリストは真の信者をみな、ご自身との完全な一致、ご自身とみ父との間に存在する一致へまでも至らせてくださる。神の真の子らは互いと、また救い主と結び合わされる。彼らはキリストと共に神の内にあつて一つである。世界総会冊子 3d1900 年

キリストは私たちがみな一つとなるため祈られた

「父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります。」(ヨハネ 17:21)

キリストは私たちに完全な罪のない模範を残された。この方に従う者はそのみ足の跡に歩む。もし彼らの品性が改変されていなければ、キリストの王国でこの方と共に住むことはできない。キリストは彼らを高め気高くするために死なれたので、悪に対する遺伝的な傾向を持ち続ける者はこの方と共に住むことができない。このお方は人間にとって苦しみ耐えることが可能なかぎりのすべてに苦しみました。それによってサタンが私たちの信仰を破壊するために考案できるすべての誘惑に、私たちが勝利することができるためなのである。

私たちの唯一の希望はキリストのうちにある。神はご自分の民が得るようにと日毎に勝利された。……天来の賜物によって、主はご自分の民のために十分な備えをしておられる。地上の親は子供に清められた品性を与えることはできない。自分の品性を子供に移すことはできない。神だけが私たちを変えることができることになる。キリストは弟子たちに息を吹きかけて「聖霊を受けよ」と仰せになった。これは天からの大いなる賜物である。キリストはみ霊を通してご自身の聖化を彼らに分け与えられた。彼らが福音に魂を導くことができるように、ご自身の力を彼らに吹き込まれた。それ以来キリストは彼らの能力を通して生き、その言葉を通して語っておられる。この後キリストと彼らは一つであることを知るという特権を彼らは与えられた。彼らはこの方の原則を大切に、そのみ霊に支配されなければならない。これ以上自分自身の道に従い、自分自身の言葉を語ってはならなかった。彼らが語る言葉は清められた心から出てくるものであり、聖化された唇から出るものでなければならなかった。これ以上自分の利己的な人生を送るのではなく、キリストが彼らの内に住まわれるべきであった。……キリストは彼らに、ご自分がみ父と共に持つておられた栄光、ご自身と彼らが神にあって一つになるという栄光をお与えになる。世界総会冊子 4th 1899 年

キリストと一つであるということは、自分が得ることのできる最高のほまれであることに、青年男女は気づくべきである。……あなたのものであるすべてのもの、すなわち魂、体、そして精神を主に捧げなさい。あなたの持っている全能力を聖霊の支配に委ねなさい。ビュー・アノド・ハルド 1899 年 5 月 9 日

キリストと一つ

「わたしは、あなたからいただいた栄光を彼らにも与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。」(ヨハネ 17:22)

この言葉の中には、本当のクリスチャンの間には一致と親切と愛が存在するという事実を証明するための、最も説得力のある声明がある。世の贖い主は信じるすべての人の品性のうちで、あがめられ栄光を受けられる。……世に対するとほうもなく重大な結果は、クリスチャンであると主張する人々、聖書が神のみ言葉であることを信じると主張する人々の一致にかかっている。ユース・インストラクター 1894年 8月2日

「インマヌエル、神われらと共にいます」これは私たちにとってすべてを意味する。この言葉は私たちの信仰のために何と広大な土台をすえていることであろうか。不死という何と大きな希望を信じる魂の前に置いていることであろうか。天国への旅路の一步一步を私たちに同伴するために、キリスト・イエスにあつて神われらと共にいますとは。慰め主、困惑の中での導き手として、私たちの悲しみを和らげ、誘惑の中で私たちをかばうために聖霊が私たちと共にいますとは。「ああ深いかな。神の知恵と知識との富は。」……愛を養い、疑いやうらやみ、妬み、悪いことを考え、語ることを根絶しなさい。一人の人として共に推し進み働きなさい。あなた方自身の間に平和があるようにしなさい。

ナザレのイエスのみ名によって、霊的プライドや最高位を愛するような一切のものを捨て去るよう、あなたに嘆願する。戦いが終わった時には王家の一員、天の王の子になりたいのであれば、幼な子のようにになりなさい。ヨハネの福音書 17章を繰り返し読みなさい。弟子のためにみ父に差し出された救い主の祈りは、何度も繰り返し祈り、実生活に持ち込む必要がある。この祈りは墮落した人間をふり立たせる。私たちがこの一致を保つなら、神はみ子を愛されたように私たちを愛され、罪人は救われて、神は永遠に栄光をお受けになると主が約束しておられるからである。

天使たちはこの贖いの大いなる計画に驚く。彼らは神の憐れみと愛を見つめる時、み父とみ子を賞賛し愛する。手紙 31, 1892年

世にキリストを反映する

「わたしが彼らにおり、あなたがわたしにいますのは、彼らが完全に一つとなるためであり、また、あなたがわたしをつかわし、わたしを愛されたように、彼らをお愛しになったことを、世が知るためであります。」(ヨハネ 17:23)

み父への執りなしの祈りの中で、イエスは墮落した人間に関する天でなされた契約について、ご自分の役割を果たすことを、み父に対する義務とされたが、その条件を成し遂げたことを主張された。……ご自分を信じる人々のうちでご自身が栄光を受けていると宣言される。この方の名がついた教会は、イエスが始められた働きを栄光に輝く完全にまで到達させなければならない。そして教会がついに神のパラダイスの中で贖われる時、イエスはご自分の魂の苦しみを見て満足される。永遠にわたって贖われた群れはこのお方の最高の栄光となる。

預言の霊 3 卷 260,261

「わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである。」私たちは主を絶えず目の前に置いておかねばならない。これをする者はエノクのように神と共に歩み、自分には分からなくてもみ父とまたみ子と一つになる。日毎に思いと心に変化があり、生来の傾向、生来の方法は神の方法とみ霊に似たものに形造られる。彼らは霊的知識が増し、キリスト・イエスにある男女の完全な姿にまで成長していく。彼らは世に対してキリストの品性を反映し、自分がこの方にとどまり、この方も自分にとどまっておられることによって神の子と呼ばれるための伝道を成就する。すなわち彼らは世の光となり、隠れることのできない丘の上に建てられた町となる。「だれもあかりをとめて、それを何かの器でおおいかぶせたり、寝台の下に置いたりはしない。燭台の上に置いて、入ってくる人たちに光が見えるようにするのである。」上から光を与えられた人々は義の太陽の明るい光線を送り出す。ユース・インストラクター 1894 年 10 月 25 日

罪を犯すことから守られる

「すべて彼における者は罪を犯さない。」(ヨハネ第一 3:6)

信心を単に告白しても価値はない。クリスチャンというのはキリストにおる人である。「彼についてこの望みをいだいている者は皆、彼がきよくあられるように自らをきよくする」からである。あらゆる国で私たちの若者は神と協力すべきである。人が純潔になることのできる唯一の方法は神のような思いを持つ者になることである。私たちは神をどのようにして知ることができるであろうか。神のみ言葉を研究することによってである。……

真理が心に受け入れられ、人が純潔にされ清められるのは、イエス・キリストを信じる信仰を通してである。イエスは「われわれののがのために傷つけられ、われわれの不義のために碎かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけてわれわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。」知りつつ罪を犯しながら癒されるのは可能だろうか。いいえ、私は自分が罪を犯したことを知っている。しかしイエスは私の罪を許して下さった。だから今後私はこのお方の力のうちに、またその力を通して誘惑に抵抗すると言うのが本物の信仰である。「彼についてこの望みをいだいている者は皆、彼がきよくあられるように、自らをきよくする。」彼は自分を誘惑に打ち勝たせることのできる原則を心のうちに持っている。

「すべて彼における者は罪を犯さない。」魂が誘惑を受けている時、神はキリストの内にいる魂を守る力を持っておられる。「すべて罪を犯す者は彼を見たこともなく、知ったこともない者である。」それは真の信者はみな生活と品性が真理を通して清められるということである。「子たちよ、だれにも惑わされてはならない。彼が義人であると同様に、義を(行うと公言する者ではなく)行う者は義人である。」「すべて神から生まれた者は罪を犯さない。……その人は神から生まれた者」だからである。「神の子と悪魔の子との区別はこれによって明らかである。」今その区別があることに注意なさい。「すべて義を行わない者は神から出た者ではない。兄弟を愛さない者も、同様である。」「子たちよ、わたしたちは言葉や口先だけで愛するのではなく、行いと真実とをもって愛し合おうではないか。」ユース・インストラクター 1894年2月15日

キリストの愛のうちにとどまる

「そしてわたしは彼らに御名を知らせました。またこれから知らせましょう。それは、あなたがわたしを愛して下さったその愛が彼らのうちにあり、またわたしも彼らのうちにおるためであります。」(ヨハネ 17:26)

※あなたの自己憐憫はあなたに害を与える。あなたは自分を憐れみ、自分が正しく重んじられておらず、自分の働きは総じて非常に困難であり、最善の努力も真価を認められていないと感じている。こういった感情は霊的病いの結果であり、キリストを信じる信仰を通してのみ治すことのできるものである。あなたが疲れて、途方にくれている時、この誘惑があなたを捕らえるが、初めの徴候があらわれる時、あなたが不平をこぼしつぶやくよう、敵が働きかける時、イエスを見つめ、あなたの救い主を信頼しなさい。これが、この霊的マラリヤに対する唯一の治療である。……もしこのような感情が思いを占めるのを許すなら、敵はあなたがこれを続けることが分かっている。敵はあなたの目の前に拡大鏡を置いて、ささいな困難の丘をそびえ立つ山のように思わせる。……あなたは神にあってどのように休息するかを理解する必要がある。聖霊に形造られた賢い心を持つのはあなたの特権であり、あらゆる真の幸福の基礎である。……

神は、あなたのご自分の愛に信頼し、あなたの思想という扉に錠をおろすことによって、あなたの魂をたえず守って、思想が制御できないものにならないようにと望んでおられる。あなたの思いが自己憐憫というこの思想にふけるのを許すなら、あなたに良いこと、良いことだけをする人々に関して、最も不親切な最も理性を欠いたことをしていると、敵はほのめかしに来るからである。……

イエスの勧告に聞き従いなさい。そうすれば賢く力ある相談相手、唯一真の導き手、あなたに平安と幸福と豊かな喜びを与えることのできる唯一人の方からさまよい出ることはない。……他人が自分のことを何と思うと、自分に何をすることができるとしても、キリストと一つになっている者、み霊と共にいる者はわずらわされる必要はない。私たちはキリストのおられない所にはどこにも休息を見つけることはできないことをあなたは知っている。手紙 10, 1894 年

※この個人的な証は多くの人に勇気をもたらす。エレン・ジー・ホワイト管財人

私たちはキリストにおりキリストも私たちにおられる

「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者はわたしにおり、わたしもまたその人におる。」(ヨハネ 6:56)

神のみ言葉についての瞑想は、私たちが救いについて賢くする。このみ言葉についての知識は私たちの幸福を保証し、クリスチャン品性の完全に達することを保証する。

信仰によって神のみ言葉を受け入れるすべての者はそのみ言葉を行う者である。彼らの思いは、キリストが、神のみ子の肉を食べ、血を飲むこととして表現された真の知識によって広げられる。そして彼らが真理を実践する時、他の人々に命のみ言葉を提供する。このようにして彼らは感化力の一つ、命から命に至らせる香りとなる。

キリストは「人を生かすものは霊であって、肉はなんの役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である」と仰せになった。「わたしの肉を食べわたしの血を飲む者はわたしにおり、わたしもまたその人におる。生ける父がわたしをつかわされ、また、わたしが父によって生きているように、わたしを食べる者もわたしによって生きるであろう。これは天から下ってきたパン」である。……

サタンは、唯一のまことの神とこの方がつかわされたイエス・キリストについての知識に属さない食物に対する食欲を満足させるために、できることは何でもするつもりである。品性の粗野な特徴を持ち続けている者、言葉や気質に欠点をあらわし続ける者は、神のみ子の肉を食べ、血を飲んでいないということを証している。ユース・インストラクター 1898 年 12 月 8 日

霊的能力を活気づけるのは心にとどまる神のみ言葉である。……

イエスは人を愛し、その血で買われた魂が新しく生まれ、新しい命がご自身の命から引き出されるためにあらゆる備えをされた。……「御子を持つ者はいのちを持ち、神の御子を持たない者はいのちを持っていない。」キリストを信じる者は、自分が信じているお方から、自分の原動力となる力と品性の性質を得る。ユース・インストラクター 1895 年 1 月 10 日

私たちの命はバプテスマを通して キリストと共に神のうちに隠されている

「あなたがたはすでに死んだものであって、あなたがたのいのちは、キリストと共に神のうちに隠されているのである。」(コロサイ 3:3)

父と子と聖霊のみ名によってバプテスマを受けた者には、大きな責任がある。「あなたがたはすでに死んだものであって、あなたがたのいのちは、キリストと共に神のうちに隠されているのである」というみ言葉の意味を理解するため努力しなさい。あなたが入った新しい生活の中で、あなたはキリストの生涯をあらわすことを誓っている。「造り主のかたちに従って新しくされ、真の知識に至る」新しき人を着たので、「だから、あなたがたは、神に選ばれた者、聖なる愛されている者であるから、あわれみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身につけなさい。互いに忍びあい、もし互いに責むべきことがあれば、ゆるし合いなさい。主もあなたがたをゆるして下さったのだから、そのように、あなたがたもゆるし合いなさい。これらいつさいのものの上に、愛を加えなさい。愛はすべてを完全に結ぶ帯である。キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい。あなたがたが召されて一体となったのはこのためでもある。いつも感謝していなさい。

古い罪深い生涯は死に、バプテスマの誓いによって、キリストと共に新しい生涯に入った。救い主の品性の徳を実践しなさい。この方の知恵をあなたのうちに豊かに宿らせなさい。「互いに教えまた訓戒し、詩とさんびと霊の歌とによって、感謝して心から神をほめたたえなさい。そしてあなたのすることはすべて、言葉によるとわざによるとを問わず、いつさい主イエスの名によってなし、彼によって父なる神に感謝しなさい。」……改心する前に犯した罪は、古き人と共に捨て去らなければならない。キリスト・イエスと共に新しき人は「慈愛、謙遜、柔和、寛容」を身につけるべきである。手紙 32、1907 年

イエスの霊と愛のうちに、この方と一つになる者は、互いに親密な交わりをし、愛という絹の糸で結びつけられる。……信仰の子らは「あなたがたはみな兄弟である」が格言となる。……すべての者はひとしくキリストと一つである。原稿 28,1897 年

王国を受け継ぐ心の貧しい者

「こころの貧しい人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。」(マタイ 5:3)

キリストは、天国にあるのと同じ平和と喜びで世界を満たしたいと切望された。……その聖なる唇から、ご自身をすべての慈しみの泉として示す祝福があふれるばかり豊かな保証として流れ出た。そしてすべての者の心を祝福し、感動させるのはこのお方の特権であった。キリストは特別聖別された地域にたずさわり、永遠の宝はこの方の命令のもとにあった。それらを処理するについてこのお方には制限がなかった。神として行動することは、この方にとって固守すべきことではなかった。祝福の中でキリストは、この世でご自分の王国を構成すべき人々を受け入れられた。あらゆる魂の幸福と喜びに不可欠なすべての祝福を世にもたらし、大群衆の前に、天の恵みという富、永遠に存在されるみ父の豊かな宝を提供された。……

神の相続人であり、ご自身との共同相続人となる人々をキリストは明示される。公にご自分の選民を選ばれたことを宣言し、ご自分と結びついている者が、ご自分の働きにおいてなすべき場所を彼らに割り当てられる。はっきりと示されたとおりの品性を持っている者、すなわち、いつでもこの方のもとへ来る者は、その方と共に祝福と栄光と名誉を分けあう。原稿 118,1905 年

自分は完全であり、かなり善良であると考え、自分の状態に満足している者は、キリストのめぐみと義にあずかることを求めない。誇りは必要を感じない。だから、キリストとキリストがおいでくださって与えようとしておられる無限の祝福とに対して心を閉ざしてしまうのである。そのような人の心にはイエスがいられる余地はない。……自分を救うことはできない、また自分では正しい行いはできないと知っている者は、キリストがお与えになる助けを感謝する者たちである。彼らは心の貧しい者であり、主は彼らを幸福であると言明されたのである。祝福の山 8, 9

悲しんでいる人たちは慰められる

「悲しんでいる人たちは、さいわいである、彼らは慰められるであろう。」(マタイ 5:4)

ここにみられる悲しみとは罪のための真心からの悲しみである。……人が十字架にあげられたイエスを見るように引きよせられる時、彼は人類の罪深さをはっきり知る。彼は栄光の主を嘲笑し、十字架につけたのは罪であることを悟る。彼は今まで言い表わせないほどのやさしさをもって愛されてきたのに、自分の生涯は忘恩と反逆の場面の連続であったことを知る。彼は最良の友なるおかたを捨て、天のもっとも尊い賜物を乱用した。彼は神のみ子を自分で再びくぎづけたのである。そしてその傷つき痛められた心をもう一度さし貫いたのである。彼は広く、暗く、深い罪の淵によって、神からへだてられた。彼は絶望感にうちひしがれて悲しむのである。このような悲しみは「慰められるであろう。」神はわたしたちがキリストのうちに逃げこむために、彼によって罪の束縛から解放し、神の子らの自由を喜ぶために、私たちの罪をあらわしてくださる。真の悔いをいだいて、私たちは十字架のもとに来ることができる。そしてそこに私たちの重荷をおけばよいのである。

救い主の言葉はまた苦悩や失望に苦しむ者に慰めのことばとなる。私たちの悲しみは地からわきでるのではない。神は「心から人の子を苦しめ悩ますことをされない」のである。神が試練と苦悩とをゆるされる時は、「わたしたちの益のため、そのきよさにあずからせるため」である。耐えがたく思われる試練も、信仰をもって受けるならば、祝福であることがわかる。この世の喜びを砕く残酷な一撃も、私たちの目を天に向ける手段となる。悲しみが彼らを主にある慰めに導かなかったならば、イエスを知らないでしまう人がどんなに多いことであろう。

主は、ご自分にたよるすべての者のために働かれる。忠実な者は尊い勝利を得る。貴重な教訓を学び、すばらしい体験をすることができる。……

キリストは、悔いた心をひき上げ、悲しむ魂を洗練してそれをご自分の住居としてくださるのである。祝福の山 11-13

柔和な人は地を受けつぐ

「柔和な人たちは、さいわいである、彼らは地を受けつぐであろう。」(マタイ 5:5)

圧倒的な偉大さをもった説教者として、キリストは権威をもって、抵抗できない力を持つみ言葉を語られた場合があるが、その時人々は、自分たちの前に立たれた方と比べて自分の無価値さを感じるのであった。彼らは心を深く動かされ、この方が栄光のきわみから命令を繰り返しておられることを、彼らの心は印象づけられた。キリストが世に聞くようにと説教された時、彼らは魅せられ、うれしくて我を忘れ、確信が彼らの心に入った。一つ一つの言葉にはそのための場所があり、聞き手は抵抗できないそのみ言葉を信じ受け入れた。この方が言い表わされた一つ一つの言葉は、聞き手にとって神の命のように思われた。キリストは世の光であり、教会の権威であり、すべてのものの上に卓越しておられるという証拠を示し続けておられた。原稿 118,1905 年

イエスは、その王国の主要な資格の一つとして柔和をおかれるのである。主ご自身の生涯と品性に、このとうとい徳性の神聖な美が現われているのである。
.....

人間の本性は、たえず自己を表現しようと戦い、競争している。しかしキリストに学ぶ者は、自己、誇り、至上権を愛する心がなくなり、心の中はおだやかになる。自我は聖霊の指導に服従する。その時私たちは最高の地位を得たいと望まなくなる。……私たちの最高の地位は、救い主の足下にあると思うのである。
.....

キリストのうちに住む結果生じる謙遜な心と柔和は、祝福の真の秘訣である。「主は……へりくだる者を勝利をもって飾られる」……罪がこの世界に入り、最初の両親がこの美しい地、彼らの王国の統治権を失ったのは、自己を高める野心によってであった。キリストが失われたものを贖われるのは自己放棄によってである。主は私たちが主と同じく勝利しなければならないと言われる。「柔和な者は国を継ぐ」時、私たちは謙遜と自己屈服によって、主とともに世継ぎとなるのである。祝福の山 17-21

飢え渴いている人は飽き足りる

「義に飢えかわいている人たちは、さいわいである、彼らは飽き足りるようになるであろう。」(マタイ 5:6)

義は聖であり、神に似ることである。そして「神は愛である」。義は神の律法にしたがうことである。なぜなら「あなたのすべての戒めは正し」く、「愛は律法を完成するものである」からである。義は愛であり、そして愛は神の光であり、命である。神の義はキリストの中に具体化した。私たちはキリストを受けることによって義を受けるのである。

義が得られるのは、苦しい戦いやつらい労苦によってではなく、ささげものや犠牲によってでもない。それはそれを受けたいと飢えかわくすべてのものに無償で与えられるのである。……

どんな人間の力も魂の飢えとかわきを満たすものを供給することはできない。しかしイエスは……「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない」と言われる。

肉体の力をささえるために食物が必要であるように、霊の命をささえ、神のわざをなす力を受けるために、私たちは天からのパンであるキリストが必要である。身体が命と活力をささえる栄養をたえず受けているように、魂もキリストとたえず交わり、キリストにゆだね、全くとよらねばならない。

疲れた旅人が砂漠で泉をさがし求め、ついに発見して、焼けるようなかわきをいやすように、クリスチャンはキリストの泉から、命の清水を求めて飲むのである。……私たちは浅い流れでかわきをいやそうと求める必要はない。もし私たちが信仰の道をわずかでも高くのぼるならば、私たちのすぐ上に大きな泉があるから、その豊かな水を私たちは自由に飲むことができるのである。

神のことばは命の泉である。あなたが生きた泉をさがし求める時、聖霊によって、キリストの交わりに入れられる。……あなたは驢いのみわざと他の真理の関係を悟り、キリストがあなたを導いておられること、神聖な教師があなたのそばにおられることを知るであろう。

祝福の山 22-24

憐れみ深い人は憐れみを受ける

「あわれみ深い人たちは、さいわいである、彼らはあわれみを受けるであろう。」(マタイ 5:7)

人間の心は本来冷たく、暗く、愛なきものである。あわれみとゆるしの心があるらわされる時はいつでも、それは人間から出たのではなく、その心に働く神の霊の感化によるのである。「私たちが愛し合うのは、神がまず私たちを愛して下さったからである」。

神ご自身がすべてのあわれみの源である。神のみ名は「あわれみあり、恵みあり」である。神は私たちの功績にしたがって私たちを取り扱われるのではない。神は私たちが神の愛を受ける価値があるかどうかは尋ねられない。かえって神は私たちを価値ある者とするために、その豊かな愛をそそがれるのである。神は懲罰的ではない。神は罰することを求めず、かえって救うことを願われる。摂理によって示されるきびしい処置でも、さ迷う者の救いのために示されるのである。主は人の苦痛を和らげ……ようと熱望しておられる。……心が無限の愛のみ心に一致するすべての者は、罪を責めるのではなく救おうと求める。心の中に住まれるキリストはかわくことのない泉である。主が宿られるところには、いつも恩寵があふれでるのである。

あやまちを犯し、誘惑に負け、欠乏と罪のうちにあるみじめな犠牲者の訴えに対して、クリスチャンは「彼らは価値があるだろうか」とは問わない。かえって、「どうしたらわたしは彼らを助けることができるか」と尋ねる。どんなにみじめで、また、どんなに墮落した者の中にもクリスチャンは、キリストが救おうとして死なれた魂を……見るのである。あわれみある者とは、貧しい者、苦しむ者、しいたげられている者に同情をあらわす者である。……

神の子らに仕えることで神に自分の命をささげた者は、宇宙のすべての資源を支配されるおかたと連なるのである。彼の命は変わることのない約束の黄金の鎖によって、神の命と結ばれる。苦難と窮乏の時に主は彼を見捨てられない。「わたしの神は、ご自身の栄光の富の中から、あなたがたのいっさいの必要を、キリスト・イエスにあって満たして下さるであろう」。さらに最終の窮乏の時、あわれみ深い者は情け深い救い主のあわれみの中に避難所を見いだす。そして永遠の住居に受け入れられるのである。祝福の山 p26-29

平和をつくり出す人は神の子と呼ばれる

「平和をつくり出す人たちは、さいわいである、彼らは神の子と呼ばれるであろう。」(マタイ 5:9)

キリストは「平和の君」である。キリストのみわざは、罪が破壊した平和を天と地に回復することである。「このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている」。だれでも罪と絶縁することに同意し、キリストの愛に心を開く者は、この天の平和を持つ者となる。

これ以外に平和の基はない。心に受け入れられたキリストのめぐみは、敵意をしずめる。それは争いをしずめ、魂に愛を満たす。神との平和また隣人との平和を保っている者は、決して不幸になることはない。彼の心には嫉妬はない。そこには悪意のはいる余地がない。憎悪も存在しえない。神と調和している心は、天の平和の共有者である。そして周囲のすべての者に、その祝福された感化を及ぼすのである。平和の精神は、世の争いに疲れ、悩む人々の心に、露のようにとどまる。

キリストに従う者たちは平和の使信をもって世につかわされている。きよい生活の静かな無意識の感化によってキリストの愛をあらわし、ことばと行為によって、他の人に罪をすてさせ、心を神にささげるように導く者は、平和をつくり出す人である。

「平和をつくり出す人たちはさいわいである。彼らは神の子と呼ばれるであろう」。平和の精神は彼らが天と結びついている証拠である。キリストの芳しいかおりが彼らをとりまいている。その生活のかおり、その品性の美しさは、彼らが神の子らである事実を世に示している。人々は彼らがイエスと共にいたことを知るのである。「すべて愛する者は、神から生れた者である」。もし、「キリストの霊を持たない人がいるなら、その人はキリストのものではない」しかし、「すべて神の御霊に導かれている者は、すなわち、神の子である」。「その時ヤコブの残れる者は多くの民の中にあること、人によらず、また人の子らを待たずに主からくだる露のごとく、青草の上に降る夕立のようである」。祝福の山 33-35

迫害を受ける人は天国を受ける

「義のために迫害されてきた人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。」(マタイ 5:10)

イエスは彼に従う者たちに、地上の榮譽や富を得たり、または、試練のない人生を送れるような希望をお持たせにならない。かえって主は彼らに自己犠牲と屈辱の道を主とともに歩む特権を提供される。というのは世が彼らを知らないからである。

失われた世界を救うためにこられたおかたは、神と人類との敵の連合勢力の反対に出会われた。悪人と悪天使たちは無情な同盟をもって平和の君に向かって陣をしいた。救い主のことばと行ないのひとつひとつは神のあわれみの現われであったのだが、彼が世と似ていないことが、痛烈な敵意をかき立てた。生来の悪い欲望をほしいままにするのをイエスが許されなかったので、最も激しい反対と敵意をひき起こすことになった。そのように、キリスト・イエスにあつて敬虔に一生を送ろうとする者はすべて、同じ敵意と反対を受けるのである。義と罪、愛と憎悪、真理と誤謬の間には、押えがたい闘争がある。人がキリストの愛と聖潔の美しさを示すならば、彼はサタンの王国の臣下を引き離しているのである。だから悪の君はそれに抵抗して立ち上がる。キリストのみたまに満たされているすべての者には迫害と非難が待ちうけている。迫害の性質は時代によって変わるが、その本質—その根底を流れる精神—は、アベルの時以来、主の選民を殺してきたのと同じ精神である。

人々が神と調和することを求める時、十字架のつまずきが今なお終わっていないことに気づくであろう。もろもろの支配と、権威と、天上にいる悪の霊は、天の律法に服従するすべての者に対抗して陣をしくのである。こうして迫害は、キリストの弟子にとっては、悲しみをひきおこすどころか、かえって喜びとなるはずである。なぜならそれは、彼らが主の足跡に従っている証拠だからである。……

試練と迫害を通して、神の栄光—品性—が神の選ばれた民のうちに現わされる。祝福の山 p35-37

ののしられる者はさいわいである

「わたしのために人々があなたがたをののしり、また迫害し、あなたがたに対し偽って様々の悪口を言う時には、あなたがたは、さいわいである。」(マタイ 5:11)

この世に生をうけた者のなかで、人の子ほど残酷な中傷を受けた者はなかった。イエスは、神の聖なる律法の原則に確固として従われたので、愚弄され嘲笑を受けられた。人々は理由なしに主を憎んだ。しかし主は敵の前に冷静に立ち、非難はクリスチャンの遺産の一部であると言明しておられる。また弟子たちに、いかにして悪意の矢をふせぐべきかを教え、迫害に会っても気落ちしないようにと命じておられる。

中傷は人の評判を悪くすることはできるが、品性に汚点をつけることはできない。それは神の守りのうちにあるのである。私たちが罪に同意しない限り、人間でもサタンでも魂に汚点をつける力はない。神に信頼している人は、どんな苦しい試練、どんな絶望的な状況にあっても、以前自分が繁栄していて、神の光とめぐみに浴していると思えた時と全く変わらないのである。彼の言葉も、動機も、行動も、誤解され曲解される。しかし彼はもっと重大な事柄に関心をもつのでそれを気にしない。モーセと同じく、彼は「見えないかたを見ているようにして」忍ぶのである。……

キリストは人に誤解され、悪い評判を立てられているすべての者を知っておられる。神の子らはどんなにそしられ、軽蔑されても、冷静な忍耐と信頼をもって待つことができる。なぜなら秘密にされているもので、明るみに出ないものはなく、神をあがめる者は人と天使たちの前で神から光栄を与えられるからである。

イエスは「人々があなたがたをののしり、また迫害する時は」「喜べ、よろこべ」と言われた。祝福の山 40, 41

迫害とそしりによってキリストのための証人となる者の天において受ける報いは非常に大きい。人々は地上の幸福を求めているが、イエスは彼らに天の報いをさし示される。しかしイエスは、何もかも来世に置くことはなさらない。報いはこの地上から始まるのである。祝福の山 43

とかが許され、罪がおおい消される

「そのとかがゆるされ、その罪がおおい消される者はさいわいである。」(詩篇 32:1)

すずめが地に落ちるのを目にとめておられる神は、あなたの態度と感情に注目しておられる。あなたの羨み、偏見、小さな不正行為において、自分の行動を正当化しようとする態度を注目しておられる。あなたがだれかの言葉や行動を誤解して、感情がかき立てられる時、そのためにあなたは正しくない申し立てをして、あなたが兄弟と不一致であることが分かってしまう。あなたは自分に対する他の人々の信頼を利用して、あなたがするように、彼らもその人に対して行なうようにと導く。苦い根がはえ出て、多くの人が汚される。あなたの感情が正しくないことが明らかな時、あなたが彼らにさせた誤った印象を取り除くよう勤勉に努力するのだろうか。……

他の人に対するわずかな不正であっても、このようなことをしたあなたが、傷つけた相手だけでなく、あなたの影響力を通じて、その兄弟に関して誤った光へと導かれた人々に対しても、あなたが告白し、神がその人に行なうようにと与えておられた働きを効果のないものにしないようにと、神は今求めておられる。……悔い改めと告白によって、あなたの名に対して記載された許しを得ることができる。あるいは、あなたは神のみ霊の確信に抵抗し、残りの生涯に、あなたのまちがった感情と不正な結論は助けることができないものであることを明らかにすることもできる。しかし悪を行なった行動やあなたが植えつけた苦い根を心の中に持って、滅ばされた人がいる。……

あなたの罪の性質がどのようなものであろうとも、それを告白しなさい。もしそれが神に対してだけであれば神だけに告白しなさい。他の人々に不正を行ったり、他の人々の感情を害したのであれば、その人々にも告白しなさい。そうすれば主の祝福があなたの上にとどまる。この方法であなたは自己に対して死に、キリストがあなたの内に宿られる。……神に対する私たちの献身は限りないものでなければならない。私たちの愛は熱烈で信仰はゆるぎのないものでなければならない。その時唇からでる言葉は心に活気を与える知性と魂に宿る神のみ霊の深い働きを証する。ビュー・アンド・ヘルド 1890 年 12 月 16 日

あなたの内にいます栄光の望みであるキリスト

「神は彼らに、異邦人の受くべきこの奥義が、いかに栄光に富んだものであるかを、知らせようとしたのである。この奥義は、あなたがたのうちにいますキリストであり、栄光の望みである。」(コロサイ 1:27)

ほとんどすべての人の身体と思いに病気をもたらすのは、満足感のなさと不満を抱いたつぶやきである。彼らには神がいない。彼らには魂を安全にし、不動にする錨である、幕の内にはいり行かせる希望がない。この希望を持っている者はみな、神が清くあられるように自らを清める。そのような人は止むことのない強い欲望、つぶやき、不満から解き放たれている。彼らはたえず悪を求め、自らきたらせた悩みに心を奪われることはない。しかし私たちは多くの人が前もって悩みの時に入っているのを見る。顔の造作一つ一つに不安が記されており、慰めを見出すようには見えず、何か非常に恐ろしい災いを絶えず恐れつつ待っている。……むなしい娯楽は決してそのような心を正すことはない。彼らは幸福になるために神のみ霊の改変させる感化を必要としている。神性で十分な慰めに気づくために、キリストのとりなしによって、益を受ける必要がある。「いのちを愛し、さいわいな日々を過ごそうと願う人は……悪を避けて善を行ない、平和を求めて、これを追え。」……この聖句について経験による知識を持つ人々は本当に幸せである。……心のうちに住んでおられる栄光の望み、キリストは、体にとっては健康であり魂にとっては力強さである。教会への証 1 巻 566

イエスの愛を吹き込まれた魂は……イエスを熟視することを愛し、この方を見つめることによってそのみかたちに変えられる。栄光の望みであるキリストが心の内に形造られる。確信が増し……自分がキリストにおり、キリストが自分におられるという保証を持つので、愛が深くまた広がる。……そしてイエスの最も優しい同情を求めてこのお方を見つめ、「勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」と仰せになったお方に全幅の信頼を置きつつ耐えるよう励まされる。ユース・インストラクター 1894 年 8 月 9 日

主にあって喜ぶ

「どうか、わたしの思いが主に喜ばれるように。わたしは主によって喜ぶ。」(詩篇 104:34)

あなた自身を完全にイエスのみ手に委ねなさい。この方を信じるようにと、私たちのためになされたその方の無限の犠牲と克己を私たちが瞑想する時、あなたはこの方の大いなる愛を深く熟考しなさい。そうすればあなたの心は聖なる喜びと静かな平安、また言い表わすことのできない愛に満たされる。私たちがイエスについて語る時、祈りでこの方を呼び求める時、このお方が自分の個人的な愛する救い主であるという確信が強まり、この方のご品性がますます麗しくあらわれる。……私たちは愛という豊かなごちそうを楽しむことができ、養子縁組によって自分がこの方のものであると完全に信じる時に、天国を前もって味わうことができる。信仰をもって主を待ち望みなさい。主は祈るようにと魂を導かれ、その尊い愛を私たちに感じさせて下さる。私たちはこの方に親しく麗しい交わりを保つことができる。イエスの優しさと思いやりについてははっきりと眺めるので、私たちの心は、自分たちに与えられた愛について黙想することにより砕かれ溶ける。本当にキリストが魂のうちに宿っておられると感じる。……私たちの平安は川のようにであり、栄光の波が次から次へと心のうちに押しよせ、まことに私たちはイエスと食を共にし、彼もまた私たちと食を共にする。私たちは神の愛について敏感に感じ、その方の愛のうちに休息する。言葉でそれを描写することはできない。知識を越えているからである。私たちはキリストと一つであり、私たちの生命はキリストと共に神の内に隠されている。私たちの生命であるキリストが現われる時には、私たちもこの方と共に栄光のうちに現われるという保証が私たちにはある。強い確信をもって私たちは神を父と呼ぶことができる。生きていようと死んでいようと、私たちは主のものである。この方のみ霊は私たちを気質においても、性質においてもイエス・キリストに似たものとし、私たちは他の人々に対してキリストをあらわす。キリストが魂のうちに居られる時、その事実は隠すことができない。なぜなら、この方は生命の水の源のような方だからである。私たちは品性においてこのお方のすがたを表さずにはいられない。そしてわたしたちの言葉、態度は、他の人々のうちに、キリストに対する深く永続的な増し加わる愛を生じさせる。そして私たちがイエス・キリストのかたちに同化していることを……あらわす。手紙 52, 1894年

Good Way Series 研究 3-5



キリストが 戸をたたいておられる (V)

III- 区別をあらわす特徴

宗教的な覚醒が起こるたびに、サタンは自分の代理者たちを用いて、聖霊によって導かれてきた人々の品性や動機を誤り伝えるために用いてきました。そして今日でさえ、大欺瞞者は律法を遵守すると公言する人々の思いのうちに、疑いを生じさせ、誤った考えを示唆するために、最善を尽くしています。正直で高潔な人々をいまわしく欺瞞的なものとみなすように、彼らを導いています。預言の霊はこのサタンの策略に対して警告しています。

1. サタンは混乱を生じさせることにおいてどのように成功しているか

ここに彼がどのように働くかがあります。

a) 彼は真の改革に再生されていない人々を携わらせる。それから、

b) 彼は真の改革の敵は、真の改革があたかもこれらの再生されていない人々に属しているかのように、彼らのゆえに神のみ働きを拒ませる。

「すべてのリバイバル集会において、〔サタン〕は、心が清められず、精神の不健全な者を参加させようとしている。この人々が、真理のいくぶんかを信じて、信者の仲間に入ると、サタンは、彼らを通して、軽率な人々を欺く説を持ち込んでくる。神の子供たちの仲間に入り、礼拝の家にいて、主の聖餐にあずかるからといって、その人が真のキリスト者であるとはかぎらない。サタンはしばしば、彼が用いることのできる者の姿をかりて、最も厳粛な集会に連なっている。その人が真のキリスト者であるとはかぎらない。サタンはしばしば、彼が用いることのできる者の姿をかりて、最も厳粛な集会に連なっている。

悪の君は、神の民が天の都に向かって進む旅のその一步ごとに妨害をする。教会の全歴史において、改革が行なわれるときには必ず重大な障害があった。

パウロの時代においてもそうであった。彼が教会を起こしたところではどこでも、信じると言いながら異端をもたらす者たちがあった。そして、もしそれを信じるならば、ついには真理に対する愛が失われてしまうのであった。ルターもまた、直接神の言葉に接したと主張して自分の考えや意見を聖書の証言以上に重要視する狂信的な人々に、非常に悩まされ苦しめられた。信仰と経験に欠けていながら、相当のうぬぼれを持ち、新奇なことを聞いたり話したりすることが好きな多くの人々は、このような新しい教師の主張に欺かれ、神がルターを動かして打ちたてようとなさったことを破壊するサタンの働き、その手先となった。また、ウェスレー兄弟や、またその感化力と信仰とによって世界に祝福をもたらした他の人々も、過激で不健全で清められていない人々をあらゆる種類の狂信に陥れるサタンの策略に、終始悩まされたのである。…

宗教改革の時代に、改革の敵たちは、狂信の害悪をすべて、最も熱心に狂信に反対して働いていた人々自身のせいにした。同様のことが、再臨運動の反対者たちによって行なわれた。極端な人々や狂信的な人々の誤りを、偽り誇張して伝えるだけでは満足せずに、なんの根拠もない悪評を言いふらした。…

再臨信徒の中に少数の狂信者がいたからといって、それが神の運動でなかったと決める理由にはならない。神の民が、眠りからさめて、悔い改めと改革の業に熱心に取り組むのなら、また、イエスにある真理を学ぶために、聖書を探るなら、そして、神に対して全的な献身をするなら、そのときには、サタンが今なお抜け目なく活動しているということが、よくわかるであろう。サタンは、できるかぎりの欺瞞を働かせ、彼の支配下のすべての墮落天使を動員して、彼の力をあらわすであろう。(各時代の争闘下巻 101-104)

最高の果物、ナッツ、穀物がいたるところにありました。彼らは料理をしたり、皿を洗ったりする必要がありませんでした！

人の最初の家庭はそのように、美しく、平和で、言葉に尽くせない幸せなところでした。そしてアダムとエバは、もし一つのあやまちをおかしさえしなければ、なおそこで生活できるのですでした。

そのあやまちは、当座は小さく大したことがないように見えてましたが、彼の生涯の分岐点となるのですでした。その後、何一つ同じものはありませんでした。

それはこのように起こりました。ある日、エバは園の中を一人で散歩に出かけました。彼女は園の中央にある二本のすばらしい木をもう一度見たかったのです。そこには美しく輝かしい色をした実がなっていました。

彼女は、なぜ、神さまはそのうちの一つの特別な名前をもった木―「善悪を知る木」―を下さらなかったのだらうと不思議に思いました。「善」とはなんでしょう。「悪」とは何でしょう。そしてなぜ彼女はその実を食べてはならないのでしょうか。どうして彼女に害を及ぼすことがあり得るのでしょうか。

神さまがこれほどのものを与えた後で、すべてのものを与えて下さなかったというのは、いかにも奇妙でした。なぜ神さまは一つの木をとっておかれたのでしょうか。しかし、エバは神さまに従わないという考えは、その時は、持っていませんでした。まちがいなく、彼女は神さまがいつかそれをみな説明してくださると思ったことでしょう。何かしかるべき理由があったにちがいありません。

カボチャ揚げ団子

■材料

カボチャ	250 グラム
黒糖	大さじ 1
塩	少々
片栗粉	大さじ 2

■作り方

1. カボチャの皮をむいて、蒸します。
2. フォークやマッシャーなどで、カボチャをつぶします。
3. 黒糖、塩を加えて混ぜます。
4. さらに片栗粉を混ぜて、良くまぜます。
5. 2 センチくらいのボールに丸めます。
6. 片栗粉をまぶします (分量外)。
7. フライパンに油を多めに入れて、中火で熱し、カボチャを中に入れて、転がしながら色づくまで 3-4 分揚げます。
8. 揚げたら、油を切って、できあがりです。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



聖書物語

パート2 第5話

最初のあやまち(1)

アダムとエバがエデンの園で過ごした数日間は、最高に幸せな日々だったにちがいません。彼らは世の中に心配ごとがありませんでした。ただの一つもなかったのです。彼らはどれほど気分が良かったことでしょう！どれほど強く、どれほど喜びにかがやき、どれほど健康的だったことでしょう！彼らは病気の意味がわかりませんでした。彼らは一度も頭痛がしたり、歯が痛くなったりしたことはありませんでした。来る日も来る日も、彼らは安眠からさわやかに目覚めて、何でもする用意ができていました。

生涯はかがやかしいピクニックでした。彼らの働きはとてもここちよく、

遊びのように簡単でした。

なぜなら、神さまが彼らの美しい家庭の園でするように言われたことはただ「耕させ、これを守らせられた」だけだったからです。そこには雑草もとげもあざみも、彼らを悩ませるものは何もありませんでした。

彼らは建物をたてたり、服を作ったりするために、長い時間かける必要はありませんでした。気候は非常に暖かく快適で、彼らは何も必要がありませんでした。

食べ物については、命を与えるビタミンたっぷりの



(41 ページに続く)